障がいなどのある学生を対象とした 正課外の取り組み

~企業との連携によるキャリア支援プログラムの事例~

佐賀大学ウェルビーイング創造センター

コーディネーター:藤本 雄大

准教授:山内 一祥

佐賀大学

- 佐賀大学は2024年4月に学内の3つの組織を統合し、「ウェルビーイング創造センター」を設立しました。
- 本センターは、学生の悩みに応じる「学修支援部門」、学生の就職支援などを行う「キャリア支援部門」、社会人の学び直しをサポートする「リカレント教育部門」の3つの部門からなる組織です。
- 佐賀大学ウェルビーイング創造センターでは、抜けや漏れのない学修者支援を目指しており、2024年度より学修支援部門とキャリア支援部門の連携による「障がいなどのある学生を対象とするキャリア支援プログラム」の取り組みを進めています。
- 本発表では、具体的な取り組みと参加者へのヒアリングから分かったこと、 今後の展望についてご紹介いたします。

設置の経緯と目的

佐賀大学の現状

【教学における問題】

- ・学修者自身による目的・目標設定の曖昧さ
- ・一層求められるキャリア自律
- ・多様なキャリア形成に支援する支援策の不足
- ・地域の社会人の学びの場としての機能の不足
- ・大学で学ぶために必要なスキルと情報の不足

【組織における問題】

- ・各支援組織が個別に取組を行っており、それぞれの学修者のウェルビーイングを向上させる観点での繋がりがない。
- ・各支援組織単位で取組を行い,学修者の段階(学修前,学修中,学修後)の間でシームレスな連携がとれず,縦割りで非効率な運営となっている。

【特に現在,十分な支援ができていないと考えられる分野等】

- ・理系女子学生のキャリア形成・就職支援
- ・リカレント教育プログラムの充実

- ・障がいや特性を持った学生の就職支援
- 大学で学ぶための知識・スキル(アカデミックスキルズ)の涵養

学内に分散する学修者への支援機能を統合・発展させ, 全体として抜けや漏れがない支援を実現するための体制構築が必要

国立大学法人 佐賀大学 志,挑戦,そして未来へ

ウェルビーイング創造センターの目的(センター規則)

センターは,佐賀大学の学生及び地位域に住む人々に対し,包括的な切れ目のない学修支援,キャリア形成支援及びリカレント教育支援を実施することにより,学修者のウェルビーイングを深化させることを目的とする。

キャリア支援部門

ミッション

従来のキャリアセンターの業務に加え, 理系女子学生,障がいや特性を持つ 学生のキャリア形成支援に取り組む。

- キャリア教育
- 就職相談
- 正課外キャリア教育
- リケジョキャリア支援
- 合同説明会

ビジョン

学生一人ひとりが納得のいくキャリア を描き,その実現のための一歩を踏み 出すことができる。

学修支援部門

ミッション

従来の学生支援室学習支援部門の 業務に加え,アカデミックスキル教育, アカデミックアドバイジングを行い学 修に課題を抱える学生の課題解決に 取り組む。

- 新入生アドバイザー
- 学習アドバイザー
- スクリーニング
- アカデミックスキル教育
- アカデミックアドバイジング

ビジョン

学生一人ひとりが興味・関心に基づいて学ぶことができ、その成果を共有する仲間がいる。

リカレント教育部門

ミッション

従来の生涯学習センターの業務に加え、地域のリカレント教育ニーズの把握とオーダーメイド型プログラムの開発などリカレント教育プログラムの充実に取り組む。

- 公開講座
- オーダーメイド型プログラム
- ライフポートフォリオ

ビジョン

地域の社会人が自身の人生を豊か にするために必要な学修の機会を得 られ,自己実現につなげられる。 佐賀大学とウェルビーイング創造センターと企業等の協働により、佐賀大学に在籍する障がいなどのある学生を対象に提供する、正課外の教育プログラム

【目的】

- 参加する学生
 - :自身のキャリアデザインを具体化する 企業の取り組み(配慮内容や環境整備)を知る
- 参画する企業
 - :配慮や環境整備について検討する 障がいなどがある人と協働するきっかけとする

【背景】これまで

旧 学生支援室を利用したことのある学生の 「未定率/卒後の就職活動継続率」が高い傾向にあった

卒後の進路(旧 学生支援室を利用した学生)

一般就職:43.8%

障害者枠:1.8%

非 正 規:5.9%

進 学:22.8%

就活継続:14.0

未 定:11.7%

※2019年度卒~2023年度卒までの5年間

【仮説】

- ・身近にロールモデルが少なく、将来についての具体的なイメージを持つ ことが難しいのではないか
- ・学校から社会へ移行することにハードルを感じているのではないか

【障がい者雇用に向け、必要な施策】

- 学生と企業のマッチング (46.0%)
- ⇒出身校へ期待する企業は50%
- 社内の意識・風土改革 (26.6%)



図 2 障害者雇用推進における出身校への期待

障害者 雇用有り 226 55 67 58 58 114 58 64 68 70 23 1 64 6 1 雇用別 雇用無し 48 14 18 15 1 12 10 12 13 1 9 4				表 4	ļ.	草害君	雇用	推進	こ必要	をなす	援・	青報				_	
ロード 25.2 31.0 26.6 25.5 46.0 24.8 27.7 29.2 30.3 8.8 5. 26.6 3.6 0.4 26.8			査	ニングの支援	手続きに関す	きのサポート	トレーニングなど業務に関す	とのマッチング障害者求人企	内人 オの育成談窓口となる用した障害者	社内人材の育成を管理・教育す	社の好事例の	周する中で発	募 め の 野 増 R 加 の	につながる P	内 の 意 選・ 風	o o	
障害者 雇用有り 226 55 67 58 58 114 58 64 68 70 23 1 64 6 1 雇用別 雇用無し 48 14 18 15 11 12 10 12 11 11 9 4	全体		274														0.4
雇用無し 40 14 10 13 12 12 13 1 1 1 1 1 1 1 1		雇用有り	226	55	67	58	58 25.7	114	58	64	68	70	23	1	64 28.3	6	0.4
	/IE/TS/55	雇用無し	48										1 2.1	2.		8.3	-

出典:『民間企業における障害者雇用のニーズと出身校との連携について』 (橋本久美ほか,2025 佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要 9巻, p. 364-371)

国立大学法人 佐賀大学 志,挑戦,そして未来へ

事前準備

- 本プロジェクトの趣旨に替 同し、ご協力いただける企業 さまを募集いたします。
- 協力いただける企業さまは、 一覧にまとめて学生へ紹介 します。



マッチング

・学生の希望と企業の状況に ついて確認・調整を行い、受 け入れをお願いする企業を 決定します。

学生には、協力企業への情 報提供の可否について相談 し、配慮事項の整理を行いま す。



実施前

・受け入れていただける企業 の担当者と大学のスタッフで、 事前の打ち合わせを行い、 プログラムの内容について、 調整・決定します。 企業さまへ、学生の情報に ついて提供いたします。



次回への展開

- ・ 先行事例をロールモデルと してまとめ、学修支援部門を 利用する学生に公開します。
- ・参加を検討している企業に、 事例を紹介し、プログラム構 想の参考として活用いただ きます。



実施終了後

・受け入れていただいた企業 の担当者と大学スタッフでプ ロジェクトの実施に関する フィードバックを行い、今後の 在り方や進め方について検 討します。



実施期間

・適宜大学スタッフによる訪問 を行い、学生が問題なく活動 できているかを確認します。 必要に応じて、面談等を実施 するなど、伴走型の支援を継 続します。



学生

(主に学修支援部門)

ウェルビーイング創造センター

企業

(主にキャリア支援部門)

事前準備

- ・就職相談への対応
- ・学生への周知
- ・ニーズ調査

実施前

- 事前ヒアリング
- ・配慮事項などの確認
- ・企業への共有事項整理

マッチング支援

実施中

- ·伴走支援
- ・面談や相談対応

実施終了後

- ・フィードバック
- ·改善策検討

事前準備

- ·協力企業開拓
- ・リスト作成

実施前

- ・学生情報などの共有
- ・プログラムの内容調整

- ・2024年6月より企業開拓 ⇒県内に本社を持つ企業、学内にオフィスを持つ企業の2社 より協力の申し出あり(いずれもIT系)
- プログラムフローに基づき、学生及び企業と調整
 ⇒3、4年生延べ4名の学生を受け入れていただき、夏季休暇期間に教育プログラムを実施内容は既存形式をベースに、配慮事項などを追加

• プログラム提供学生の拡大

⇒これまでは延べ4名の学生へ行ってきたプログラムについて、 他の希望する学生へと展開する

学修支援部門にて、相談対応を行う学生数が増加しており、 学部も多様化しているため、企業開拓が必須

• 企業開拓の継続

⇒企業の規模や業界について、学生のニーズに沿うことができるよう、さらなる拡充を図る

佐賀県内に拠点を持つ企業40社へ、順次 事前説明を実施中

• プログラムのモデル化

⇒「障がいのある学生等を対象とした就職支援」の先行事例 として整理し、公開する

ロールモデルとして共有することで、学生が自身の将来を考える際に参考として活用できる

企業においては、展開可能なプログラムとして参考にすることができる

ご質問やWebページへのアクセスは以下よりお願いいたします

ウェブサイト



https://job.admin.saga-u.ac.jp/ (キャリア支援部門)

https://www.ssd.saga-u.ac.jp/ (学修支援部門)



メールアドレス

job@mail.admin.saga-u.ac.jp



電話番号

0952-28-8984 / 0952-28-8174



Instagramはこちら



HPはこちら